



## 景観の向上や木材利用促進を評価

### 青海保育園の園舎が県主催の表彰でW受賞

三角町の青海保育園の園舎が、景観の形成向上に貢献しているとして、2月13日に「第36回くまもと景観賞」で奨励賞を受賞。3月21日には、県産木材を利用する優れた施設として「第30回熊本県木材利用優良施設コンクール」の熊本県木材事業協同組合連合会賞を受賞しました。

これらは、地域の良好な景観形成に貢献した団体などへの表彰、県産材需要拡大の一環としてそれぞれ県が主催しているものです。

園舎は、木材がふんだんに使われた平屋建てで、芝生の園庭をコの字型に取り囲んでいます。保育園と学童保育所が同じ建屋内にあり、また、青海小の敷地内でもあることから、園児や同小の児童たちの交流の場にもなっています。

同会の井上賢哲理事長は「新しい園舎が、子どもから大人まで、地域の人たちに気軽に来もらえる拠点となり、コミュニティ形成の場所にしていきたい」と話しました。



1 表彰状を披露する青海保育園の皆さん 2 木材で組まれた保育室内の空間。建物内の全てで木のぬくもりを感じることができる 3 木製の引き戸でできた園舎の玄関 4 園庭をコの字型に囲んだ園舎。園舎左側は、学童保育所

## 宇城彩館の売上の一部を市へ

### 熊本宇城農業協同組合が市へ寄付金を贈呈

3月10日、熊本宇城農業協同組合から市へ寄付金の贈呈がありました。

これは、宇城彩館を運営する同組合が売り上げの一部を毎年、市に寄付しているものです。

同組合の丸田博雄代表理事組合長は「生産者の協力のもと、野菜や果物の新鮮さに定評をいただいている。今後も地元農産物のさらなるPRと消費拡大につなげていきたい」と意気込みを語りました。



寄付金を贈呈する丸田代表理事組合長(写真左から2番目)

## 地域を盛り上げるために

### 歴史研究家が熊本城について講演

3月16日、不知火町御領本区などで構成する企画実行委員会が、JR 松橋駅構内の市地域交流センターで同区の設立10周年を記念して、熊本地震から復旧中の熊本城の歴史などを知ってもらうためのイベントを初開催。地元住民ら約50人が参加しました。

同実行委員の木杉聡さんは「今後も市地域交流センターを利用したイベントを企画し、地域活性化のお役に立てれば」と話していました。



歴史研究家の土井健一郎さんが熊本城の歴史などを講演

## 防災意識の向上のために

### 腕用ポンプおよび特別表彰まといを展示

三角防災拠点センターで3月22日から「腕用ポンプおよび特別表彰まとい」が展示されています。

これは、三角町の小田良区で100年以上保管されていた「腕用ポンプ」と旧三角町消防団が受賞した「特別表彰まとい」を展示することで、市民の防災意識の向上につなげようと市が実施したものです。

展示は、来年3月31日までを予定しています。



展示されている腕用ポンプと特別表彰まとい



新しくなった小川中グラウンド

## 生徒たちの学校環境の向上を

### 小川中グラウンド完成で改築工事が完了

昨年3月から始まった小川中のグラウンド工事が3月21日に完成。生徒たちはグラウンドが使えないため、観音山グラウンドなどを代替地として1年間使用してきました。

岩田雅子校長は「グラウンドが使えず、生徒たちの負担もあったと思う。完成後、一目散に走り出す生徒たちを見て安心した」と話しました。

工事を施工した(株)砂川建設は、完成を記念して、ベンチ3基などの物品を寄贈しました。